別紙第３

救出・救護訓練実施計画（例）

令和　　年度　　　自主防災組織　救出・救護訓練実施計画

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 内　　容 |
| 日　時 | 令和　　年　　月　　日（　曜日）　　：　　　～　　：　　迄 |
| 場　所 | 　　　　自治会公民館　　出水市　　　町　　　　番　　　　号 |
| 参加者 | 自主防災組織役員及び自主防災組織会員 |
| 参加機関 | 出水市消防本部（教育担当）、消防団　　分団 |
| 訓練目的 | 　地震による建物倒壊や落下物及び大雨による土砂災害等により、危険地区から移動できなくなった人や負傷者が発生した際は、資器材を使用した危険地区からの救出・搬送や救急車到着までの間の救護が必要となるため、その対応ができるよう訓練し練度の維持向上を図る。 |
| 災害想定 | １　地震による建物倒壊による下敷きや落下物による負傷２　大雨による土砂崩れ等による生き埋めや負傷 |
| 訓練内容 | 【出水市消防本部による出前講座】１　救出・救護活動時の配慮事項に関する説明　⑴　救出活動　　①　梯子、バール、ジャッキ等の資機材を活用して救出するとともに、速やかに消防機関に出動要請する。　②　要救出者への声掛けにより安心感を付与する。　③　周囲に協力を求め、余震や足場の安全を確かめ２次災害防止に努める。　④　救出時、火災が同時に発生した場合は、火災を制圧しつ　つ救出する。　⑤　避難行動要支援者名簿等の活用など効果的に活動する。⑵　救護活動　①　平時から地域の医療機関との連絡調整　②　地域内に臨時救護所の候補地を選定しておく。⑶　家具等に挟まれた場合　　角材・バール等により隙間を作る、状況により転倒家具の　中身を取り出す・一部破壊等により活動を容易にする。⑷　高所から降りれない人の救出　　梯子の使用、高齢者は腰に、もやい結びでロープを結び転　倒防止に努める。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 内　　容 |
| 訓練内容 | 【出水市消防本部による出前講座】２　応急手当　⑴　心肺蘇生法　⑵　ＡＥＤの取扱い要領　⑶　止血法　⑷　骨折時の応急手当（副木、三角巾等）　⑸　火傷の程度と対処法　⑹　傷病者の負担軽減と体位管理　⑺　けいれん・熱中症に対する応急手当３　搬送法　⑴　担架による搬送方法（進行方向、傾斜地での注意等）　⑵　徒手搬送（１名、複数）　⑶　応急担架（棒と毛布、棒と衣服、毛布のみ）※　出水市消防本部の出前講座受講年度以降、上記２、３項について、地域の消防団員による展示説明及び体験、または本書「第８章第１「応急手当」、第２「搬送法」」を参考に自主防災組織独自での訓練により練度を維持する。 |
| 訓練時程 |

|  |  |
| --- | --- |
| ０８：００ | 訓練開始式及び訓練説明（事前説明内容を確認） |
| ０８：２０～０８：４０ | 救出・救護活動時の配慮事項に関する説明 |
| ０８：４０～１０：２０ | 　参加人員数により、実施要領を２パターン【パターン１】参加者が多い場合（30人以上）　参加人員を３つのグループに区分し、下記項目を１項目あたり３０分で説明・体験させ、終了後、別の項目を受講する。　途中１０分間の休憩を含む。１　心肺蘇生法、ＡＥＤ取扱要領２　止血法、骨折・火傷・けいれん・熱中症３　体位管理、搬送法【パターン２】参加者が少ない場合（10人以下）　全員に対して、上記項目を１項目あたり３０分で説明・体験させる。（途中１０分間休憩） |
| １０：２０ | 質疑応答後、訓練終了式、解散 |

 |

|  |  |
| --- | --- |
| 項　目 | 内　　容 |
| 準備事項 | １　訓練場所の選定・確保（できれば前日から確保）⑴　少人数の場合は自治公民館、多数の場合は、学校体育館や公共施設を確保（駐車場を含む。）⑵　訓練環境のレイアウト図の作成及び関係組織への配布２　訓練資機材の準備　⑴　消防本部へ出前講座を依頼する際は、搬入する資器材と自主防災組織で準備する資機材を確認する。⑵　マイクセットまたは拡声器の準備⑶　救急箱等の準備３　グループ分け　訓練参加者の把握及び参加者多数の場合はグループ区分を決　　定４　前日１６：００頃　訓練場所での資機材等の配置後、点検５　前日夕方と当日朝　訓練に関する自治会放送 |